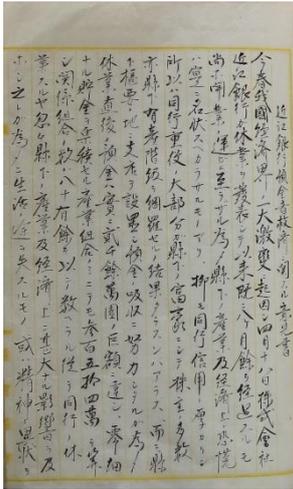


# 19

## 「近江銀行預金者救済に関する意見書」

昭和2年(1927)11月20日

今村正美県知事と鈴木喜三郎内務大臣に宛てた山中正吉県会議長の意見書です。近江銀行の休業を受けて、県内では県下預金者大会の開催や県議会決議など預金者救済の要望が日々強くなります。しかし翌年5月には単独整理を断念し、休業銀行整理促進のために新設された昭和銀行に合併されました。【昭く4-2(18)】

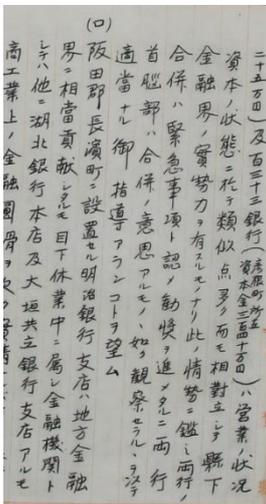
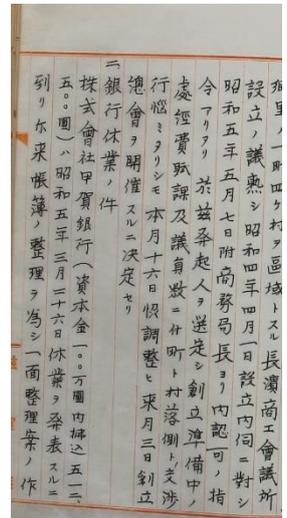


# 20

## 「県知事事務引継書(甲賀銀行休業の件)」

昭和6年(1931)

昭和6年1月に交代した田寺俊信知事から除野康夫知事への業務引継書です。甲賀銀行は2、3月ころから緩慢な預金引出しにあって次第に窮地に追い込まれていました。昭和5年の昭和恐慌のさなか起こったこの休業問題は、昭和2年の金融恐慌から立ち直ろうとしていた県下金融界に再度大きな影響を与え、結局、昭和7年に甲賀銀行は解散へと至りました。【昭お2-2(6)】



# 21

## 「県知事事務引継書(八幡銀行合併推進の件)」

昭和7年(1932)

昭和7年7月に交代した新庄祐治郎知事から伊藤武彦知事への業務引継書です。世界恐慌のさなか八幡銀行も経営危機に見舞われ、百三十三国立銀行との合併が模索されました。この引継書からは県幹部が八幡銀行と百三十三国立銀行の合併を緊急事項として提起していたことが分かります。【昭お5(6)】

【昭お5(6)】

